



政府統計

報道関係者 各位

平成 28 年 9 月 15 日

「第 15 回出生動向基本調査」結果の概要を公表します ～第1子出産前後の妻の就業継続率は 53.1%へと上昇～

国立社会保障・人口問題研究所は、このたび、平成 27(2015)年に実施した「第 15 回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」の結果概要をとりまとめましたので、公表します。

出生動向基本調査は、わが国の結婚と夫婦出生力の動向ならびにその背景を定期的に調査・計量し、関連諸施策ならびに人口動向把握等に必要な基礎データを得ることを目的とした調査で、独身者調査と夫婦調査から構成されています。調査対象は、独身者調査では「平成 27 年国民生活基礎調査」で設定された調査区から無作為に選ばれた 900 調査区に居住する 18 歳以上 50 歳未満の全ての独身者で、夫婦調査では独身者調査と同じ 900 調査区に居住する 50 歳未満の有配偶女性です。独身者調査では調査票配布数 11,442 票に対して有効票数は 8,754 票、有効回収率は 76.5%でした。また、夫婦調査では調査票配布数 7,511 票に対して有効票数は 6,598 票、有効回収率は 87.8%でした。

【集計結果のポイント】

● 独身者調査

- ・ いずれは結婚しようとする未婚者の割合は、男性 85.7%（前回 86.3%）、女性 89.3%（同 89.4%）で、依然として高い水準にある。〈p. 4〉
- ・ 異性の交際相手をもたない未婚者は引き続き増加し、男性 69.8%（前回 61.4%）、女性 59.1%（同 49.5%）となった。〈p. 11〉

● 夫婦調査

- ・ 夫婦の完結出生児数（最終的な出生子ども数の平均値）は、前回調査に引き続き 2 人を下回った（前回 1.96 → 1.94 人）。半数を超える夫婦が 2 人の子どもを生んでいる一方で（54.1%）、子ども 1 人の夫婦が増加している（18.6%）。〈p. 22〉
- ・ 第 1 子出産前後の妻の就業継続率はこれまで 4 割前後で推移してきたが、2010～14 年では 53.1%へと上昇した。〈p. 29〉

● 独身者・夫婦調査共通項目

- ・ 未婚者の平均希望子ども数は、男女ともに低下し、男性では初めて 2 人を切った（男性前回 2.04 → 1.91 人、女性同 2.12 → 2.02 人）。〈p. 36〉
- ・ 夫婦の平均理想子ども数、平均予定子ども数はいずれも低下し、過去最低となった（理想子ども数前回 2.42 → 2.32 人、予定子ども数同 2.07 → 2.01 人）。〈p. 37〉
- ・ 夫婦の予定子ども数が理想子ども数を下回る理由として最も多いのは、依然として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」（56.3%）、次いで「高年齢で生むのはいやだから」（39.8%）。〈p. 40〉